まだがんばってます！！

the 20th anniversary of
Arts&Crafts

SPECIAL ISSUE

まだがんばってます!!
Special Issue

アートアンドクラフトが発行するフリーペーパー〔ACB〕
“建物を解体して再生するリノベーション。その現場で生き残ったモノたちが語ります。”
で始まる巻末連載「まだがんばってます!!」の再編集特別号です。

新たに人生やりなおし編・・・・・・・・・・・・・ 01
単機能は便利で廃れないのよ編・・・・・・・・・・ 06
しゃーなしに結果的にがんばってます編・・・・・ 09
好きな人は好きだよね編・・・・・・・・・・・・・ 16
コラム「アンティーク未満、新品以上」・・・・・・ 20
A&Cの古物商　まだがんばらせてください　・・・ 22

発行日　2014年10月1日
発行人　中谷ノボル
　　アートアンドクラフト
編　集　植田香　竹内厚（Re:S）
デザイン　有佐祐樹（marqmew）

新たに人生やりなおし編

トイレタンク

すっきりしたタンクレスが最近の流行りで、私はすっかり落ち目です。
狭い奥のほうにあって手が洗いにくいとか、石鹸が置けないとか、
掃除がしにくいとか言われているみたいです。
でもね、飲める水を毎回ばんばん
流すなんて、この環境保全の
時代に逆行してませんか？
いっそステキな広い台をつくって、手洗いだけじゃ
なくって、用を足すごとにコップ3つ洗うとか、歯磨きもここでしてしまうとか。エコでしょ？

正式名称は「手洗いつきロータンク」。タンクの上部に蛇口があって、そこで使った水がタンクに入る。トイレで流す直前の水を利用するという、さすがの日本的アイデア製品。海外ではほとんど見られない。ちなみに、ハイタンク式とは天井ちかくにタンクがあって、紐を引っ張る、昔なつかしいアレである。（ACB vol.7掲載）

建具

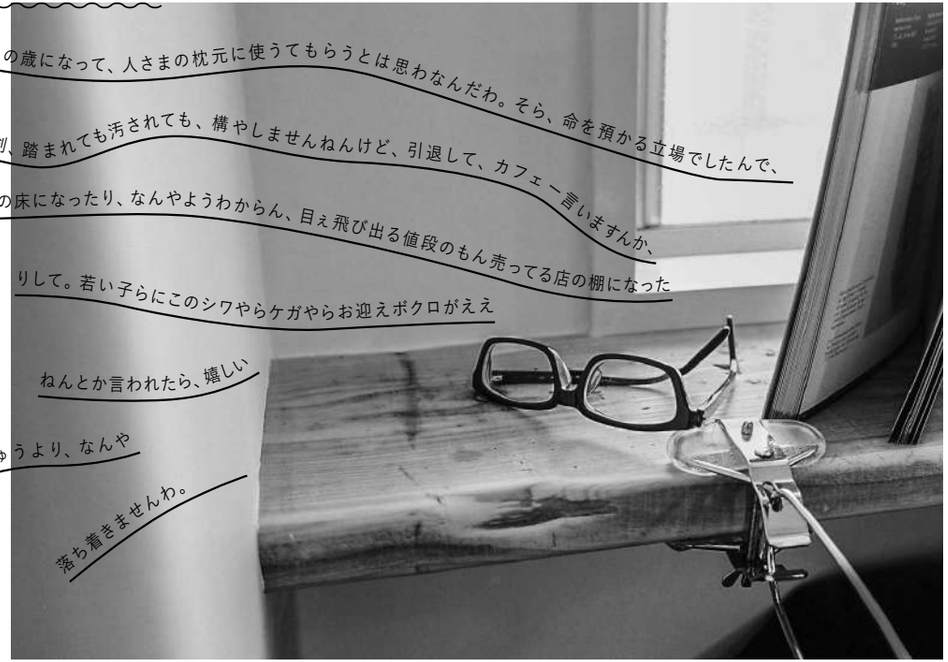
こんにちは、建具扉です。「たてぐ」と読みます。この部屋にお仕えして28年。ドア、扉、窓、その〜ん全部、建具一族です。自慢じゃないですが、私、けっこう繁盛
雇用される確率高いんです。いえ、まあ「是非に」って言われるワケじゃないんですけどね。新しいご主人や奥様は、はじめは「もっと若い
子がいい」とだいたいおっしゃるんですが、色を塗りなお
したり、ドアノブを換えたり、ガラスを洗ったりすると、それなりに
ご納得いただけるんですよ。複雑な仕事じゃないですしね、
丈夫であれば出来るんです。見た目も普通なものだから、周り
との波風も立たないですし。そうそう、従姉妹の窓がよく「私って、いつ
も絶対使ってもらえるし」とエラソウなんですけど、あれは「窓は
変えちゃいけない」っていうマンションの規則なんだそうですよ。
知りもしないで、魅力あると思ってるんですかね、笑っちゃいますよね。

建具は、歴史上「建物」ができた当初から、基本的な形を変えず人類とともにあった。その機能が原始的であるがゆえに、たとえば100年以上前のアンティークでも、モノの東西を問わず取り付けることが可能である。サスティナビリティを向上させるカギは、「単純さ」であるのかもしれない。しかしまた、建具は基本的な「開口部」としての役割のほかに、建物や部屋全体のイメージを左右する重要なパーツでもあり、設計者にとっては有効なスパイスとなる。（ACB vol.2掲載）

アクリル板

アクリル樹脂は、1930年頃のドイツで工業生産が開始され、第二次世界大戦の影響で瞬く間に普及した。当初は、航空機などの風防ガラスとして使用され、日本でも工業生産をスタート。特性は「透明度」と「強度」。水族館の巨大水槽をはじめ、水上バスやゴンドラなどでその特性をいかんなく発揮している。（ACB vol.8掲載）

足場板



主に高所作業の際、建築物の周囲に丸太を組んだ後、この足場板を渡して、作業員が移動するために使われる。近年ではアルミやスチールのものが主流だが、古くから足場板として杉板が利用されてきた。耐久性が落ちたものは、未舗装地や軟弱地盤作業時の敷板へ再利用されたり、店舗のみならず、一般住宅用建材として流通している。（ACB vol.10掲載）

単機能は便利で廃れないのよ編

インターホン

アイホンは、建築業界に知らぬものない、国内シェア最大のインターホン会社。創業は昭和23年、本社は名古屋。2008年、同社商標アイホンに酷似しているiPhoneについて、アイフォーンと表記・発音することで、商標の使用をアップルに対して承諾、友好的合意にいたったと発表している。契約詳細は非公開。（ACB vol.9 掲載）

給湯器

知ってますか？最近の人はすごいんですよ。お風呂の自動お湯張り、追焚きなんてできるでしょ。正直、肩身狭くって、引退させてくれと思ったこともありましたよ。しかしねえ、先日、リの…

なんだったかなぁ？

うん？？まあいいか、それで、私のまわりがごそっと若い人と交代したんですがね、なんと、君はまだいてくれって言われたんですよ！びっくりして、何か理由があるのか聞いてみたんですが、「特別な理由はないけど、コンパクトさと機能の単純さがいい」ですって。真面目にやってきたのが報われたのかなあ。いつも言われた温度を間違えないことと、テキパキ動くことは気をつけてるんですよ。なのでみなさん、換気だけはお願いしますね。そしたらほら、私の真面目さ誠実さで、とりあえず寿命までは使ってもらえますから。

様々な新機能を搭載した給湯設備が出回る昨今でも、需要のあるロングセラー商品。リンナイ社、パロマ社製のものが主流。2006年に発覚した湯沸器死亡事故により、メーカーを問わず経年使用の危うさがクローズアップされるようになったが、使い方さえ間違えなければ、1万円台後半から購入できるお手軽さが魅力。（ACB vol.11掲載）

しゃ――なしに
結　果　的　に
がんばってます編

出窓

「♪もしも私が家を建てたなら〜小さな家を建てたでしょう〜」。
この歌にわたしは出てきませんけど、でもきっと、この家の窓はわたしのはず。
暖炉、庭の赤いバラ、レース編みをする専業主婦…

日本が同じ方向を
向いていた頃。
みんなが同じ歌を
知っていた頃。

時代は変わっても建物は残るの。中はすっかりリノベーションされても、わたしは変わらないで
ここにいます。変わりゆく家族像を見つめながら…。

建物の外側に張り出した窓。建築基準法の定義では、床面から高さ45cm以上のところで張り出したものが「出窓」で、床面積には算入しないが、それ以下の高さだと床面積の拡張とみなされる。張り出した部分は実用よりも、物を飾るなどして、趣味や意匠的に使われる。(ACB vol.14掲載)

ふすま

ふすまです。
マンション育ちですが、
以前は相方の「畳」もお
りまして、和天井、砂壁らと
“チーム和室”として活動してお
りました。ちょっと家庭の事情
に変化があって、しばらく休養
して戻ってきましたら、まあなんと、
チーム総入れ替えですよ。あまり頼り
にしてなかった壁の「長押」だけが残っ
てましたけど…。私としては、無
二の相方でリーダーの畳がいなく
なったのが、不安で不安で仕方ない

んです。壁紙は、ベルギーから来たそうで、あまり話も通じな
いし、天井なんて「コンクリート躯体にペイントっす」って自己紹
介されたんですけど、意味がわからない。フローリングの花梨に
いたっては、「別にこのチームでも違和感ない、むしろこれか
らはコレだ」って言うんですけどね…。前にいた照明は、あま
り私と顔を合わせることもなく、うつむきがちだったんで
すけど、今の子は何が気に入らないのか、時々にらんできた
りして、落ち着かないです。そのうち慣れるんでしょうかね。
私がしっかりしないと、“チーム洋室”に吸収されてしまい
ますもんね。何かと気苦労はありますけど、押入れには
変わらず、布団がいてくれたのが救いです。

ふすまは畳とともに日本独自のものとして生まれ、進化をとげてきた。平安時代の寝殿造り内部の調度品としてはじまり、鑑賞用として襖絵などの芸術が生まれ現在にも伝わる。公家や大名などの住居から、次第に富裕層にも使われるようになり、江戸末期には一般町民にまで普及。昭和のころから、機械化による生産が行われるようになり、近年はマンション建築とともに大量生産化が著しい。木材で縁と下地をつくり、和紙を幾重にも重ねて仕上げる伝統的な製法だったものが、段ボールの芯と和紙風の紙で作られる消耗品化は嘆かわしくもあるが、いまや歴史遺産となった数多の建築パーツと比べ、そうまでして使いつづけられるふすま、恐るべしである。(ACB vol.5掲載)

火災報知機

配線が各種感知器や管理室などと複雑にからんでいるため、撤去はもちろん、動かすのも面倒なヤツ。新しいものに変えようにもプレートは廃盤、隠そうにもボタン周りが塗りこむには面倒な形状。できたら世代交代してほしいが、まだがんばってもらうしかないという、後ろ向きな残留である。（ACB vol.6掲載）

梁

まだがんばってます？ なにを言うてんねん。なりたくてこうなったわけちゃうねんで。みんなからいっつも「邪魔や」「どうにかなれへんのか」とか言われて… すごいきつかってんで。仕方ないやんか、そらオレだって、天井に引っ込みたいって、いつも思ってたわ。まあな、時代は変わったけど、オレら”躯体組”の中でも…躯体組知らん？ 構造上重要な柱、梁、壁、床なんかがそうやな。要は、マンションを支える構造の一部ってことやな。ほんでや、その中でも壁と天井はちゃうねん。あいつらはクロスをとって、コンクリート面をむきだしにするとかして人気出てるし、たって、邪魔は邪魔、結局、こうやってしか生きられへん、しょーもなくて邪魔な躯体やわ。……え？ 今回の壁の白との塗り分けはかっこいい??

よぉがんばってると思うわ。オレはいくらコンクリートむきだしにしたり、色塗ったりしそんなん一部にしかウケへんやろ。まあ、なんでもええけど、今日も重たい荷重、支えにいってくるわ！

中・高層マンションのほとんどが柱・梁のフレームで建物を支える構造である。荷重に対して抵抗するため、柱と梁は非常に太いものでなければならない。リノベ物件案内の場で必ずといっていいほど、「これはとれるんですか?」と聞かれるが、住んでしまうとそんなに気にならないという意見もある。（ACB vol.13掲載）

青便器

ええ、まだがんばってますよ。
ちょっと老舗の喫茶店や雑居ビルの飲み屋で、時々お会いしますよね、ニットの便座カバーやレースのフタカバーは、最近ちょっと元気ないかな。レモン石鹸もどうしてるんだろ。いや、わたしは丈夫なのが取り柄でね、まあさすがに、ちょっと締まりが悪いというか、チョロチョロとね…いや、お恥ずかしい。気になるのは、住宅リノベーションの現場で連戦連敗、戦力外通告が続いてることかな。なんでですかねえ。

築30年を超える一軒家へ現地調査に行くと、かなりの割合で鎮座している青便器。色が濃いほど年代を感じる。80年代頃までは、男子トイレの便器は青、女子トイレの便器はピンクが多かったが、最近は男子トイレと女子トイレで違う便器の色を採用する例はほとんどない。バブル時代にはワインレッドがよく売れた時期もあったそうだが、現在は廃盤。ちなみに、現在のカラーラインナップはベージュ、グレー、薄茶、パステルピンクといった、“あたりさわりのない色”である。（ACB vol.16掲載）

土間

ちょっと待って待って待ってー！ えっ、これで完成？ このまま使う？ 私、脱ぎっぱなし、まっぱですか？ それならそうと言っておいてよ。私にも準備というものが。せめてなにか置きませんか？ あ、マットとかラグとか、いいですね。えっ？ 土足でがしがし使いたいから、このままでいい？ そ、そうですか…。

マンションの施工において、下地となるモルタルやコンクリート面にカーペットなどを貼る際は、仕上げ材が浮かずにきちんと貼れることが大切。接着剤の置き方の重要性は低い。下地は下地であり、それを見せて使うなどはまったく想定外である。しかし、昨今のリノベーションでは、玄関土間を現して広くとり、自転車を置いたり作業スペースとして使うスタイルが人気となりつつあることを鑑みると、万事、油断大敵であるといえよう。（ACB vol.14掲載）

好き
好きな人は好きだよね
編

キッチン

キッチンは、住宅設備機器の中でも10数万円～何百万円と最も値段幅の大きい商品。しかし、「調理する」という基本機能は同じ。2、30年前のもののほうが、機能がシンプルなため部品交換のみで再利用できることも多い。ことにホーローやステンレスの面材のものは耐久性にすぐれる。丁寧に使い込まれたキッチンは、古くてもカッコいい。それはインテリアではなく、調理する道具だからだ。(ACB vol.1 掲載)

柵の手すり

丸見えでいいじゃないですか。せっかく眺めのいい部屋を選んだのに、
ソファに座れば壁しか見えないなんてもったいない。
えっ？ 出し忘れたゴミ袋が見える？ 洗濯物が見える？

でもワタシ、明るい性格ですよ、風通しのいい開放的なヤツですよ。怖いなんて言わないで、もっと近くに寄って！

建築基準法施行令第126条（屋上広場等）、第一項では「バルコニーその他これに類するものの周囲には、安全上必要な高さが1.1m以上の手すり壁、柵または金網を設けなければならない」と記されており、形状や素材の決まりはない。鉄やアルミニウム製の柵のほうがコスト的には安価であるが、比較的あたらしい物件や建てこんだ都心部では、「覗かれたくない」という近隣住民への配慮や高級感が求められて、鉄筋コンクリート（RC）や型板ガラスで壁状に手すりを作ることが多い。（ACB vol.17掲載）

古ビル

先日スカウトされたんです。48年生きてきて、もちろん初めてですよ。ちょっと疲れて、道端でぼんやり立ってたら、話しかけられたので道でも聞かれるのかと思ったんですけどね。なんでも「熟年建物」とかいう冊子が出るらしくて、その表紙モデルだとか。悪い人じゃなさそうでしたし、了解したんですけど、その場で撮るっていうんですよ。ええ、本当に普段の格好ですよ。そうです、今日のような（笑）。どうせならこんなくたびれたタイルじゃなくて、新しくしたかったし、散髪も行きたかったんですけど…。出来た冊子を頂いたのですが、恥ずかしくて、家族には見せてないんですよ。嫁さんには怒られそうですしね。評判ですか？ いやぁ、女の子とかはわりと誉めてくれますから悪い気はしませんけど、「味がありますよね〜」とか急に言われても、実感ないのが正直なところですね。あと、気になるのは隣の同期が冷たくなった気がするんです。ちょいワルおやじって言うんですか、見た目に光沢のあるアルミパネルや黒っぽい高そうな石を使って、お金をかけて若く見せてるヤツなんですけど。彼らとは生き方が違いますからね。

空室増加の原因は老朽化にあるとばかりに、昭和のビル、アパートが賃貸市場で苦戦している。ビルの若返り工事は、街を歩けばいたるところで目にする光景だ。そんな中で静かな人気を呼んでいる物件は、皮肉にも大規模なリフォーム工事をせずに50〜70年代の面影を色濃く残したビルである。使いこまれた石の階段、色むらのある釉薬タイル、木製の窓枠、手描きの案内板。若作りをせずに、自然に年をとった無欲の勝利といえる。（ACB vol.3掲載）

アンティーク未満、新品以上

中谷ノボル
アートアンドクラフト代表。生家が材木屋で幼少から建築現場に慣れ親しむ。過去、倉庫の2階、DIYした長屋、キャンピングカー、ホテルの宿直室などに暮らしてきた自称「住まいの求道者」。現在は沖縄建築のリノベーションに闘志燃やしています。一級建築士。

アンティーク品の価値は多くの人が認めています。100年経過したものをアンティークとする考えもありますが、定義はないらしいです。でも、それくらい長く歴史を刻んだ物を、古美術や家具の業界では流通させています。建築に置き換えるとどうでしょう。明治の古民家や神戸の異人館などが、住宅業界におけるアンティーク代表選手でしょうか。そのクラスの建物なら解体されても、資材やパーツが古材バンクなどで取引されることでしょう。

一方、普段リノベーションで扱う建物は、そこまで古くもない無名の建築です。平均で築40年足らず。不動産的な価値はあるけれど、歴史的文化的な価値があるとは認められていない。なので、建物をリスペクトすることもなく、初期の頃は真っさらなスケルトン状態まで解体していました。言わば、それをハコとして新たにデザイン住宅を作る感覚です。残す部分があるとすれば、予算的な理由がほとんどでした。

ところが、その考えを改めるきっかけとなる出来事が10数年前に起こりました。リノベーション済みの物件を参考見学に来た20代前半の女性が、カワイイと叫んでいる。その対象は、新たにリノベーションした部分ではなく、仕方なく残したドアの取っ手とガラス板。えっ、そんなのがカワイイんですか？ 高度成長期に大量生産された中途半端に古い建材を、たまらなくキュートなのだと言う。わからんわー。正直そう思いましたが、ファッションや家具でいうユーズドの感覚？ そう考えたら一応は理解できました。

ファッションも最初はそうだったと思うんですよ。高校生の頃、デニムにわざとダメージつけたら、なに考えとんねんと母親が怒ったものです。でも、今や住宅でも、ヴィンテージやレトロだの古さを好意的に表現する時代になりました。ジャンクという言葉まで使われてるんじゃないでしょうか。「大阪R不動産」でも、日々そんな世界観で建物を紹介しています。自分たちがセレクトした物件の価値観を共有して、住んでもらえるとホントうれしいもんです。

別にその物にたいした価値はない、でも長く現場でがんばり続けてきた。そんなモノたちを、これまでACBの連載企画「まだがんばってます」で読み物として紹介してきました。今後は、まだがんばらせてくださいと呟く建材を解体現場からリアルに引き剥がしてこようと企んでいます。一応値段は付けますが、これで大儲けしてやろうだなんて思ってませんからご安心を。そこから気に入った一品を見つけ、住まいのアクセントとして使ってほしいのです。新旧が時空を越え、ハッピーな出逢いが誕生するだろうと期待しています。

現場からハンティングしてくる品物の基準はこんな感じ。
・シンプル。過剰な機能がついていない。
・耐久性があり、まだ現役でがんばれそう。
・つるピカじゃない。ウソっぽくない。

これって、現在の建築業界の裏返しなんですよね。がんばって売るために無駄に機能をつけすぎた。で、複雑になりすぎて簡単に修理できない。修理するなら買い替えた方が安いと言われる。とんでもないクレーマーにまで対応しようと、つるピカの建材ばかりになった。工期を必死で早めるため、現場施工ではないウソっぽい工場生産品ばかり。なので時を経ても、味や渋みが出てこない。で、結局は愛着が湧かない。そうなんです。業界人が真面目にがんばり過ぎた結果、住宅が愛着の湧きにくい、可愛くない物になってしまいました。

だからこそ、まだがんばってますの一品を、現代の住まいに添えてください。するとアラ不思議！ 住まいに深みと奥行きが生まれます。歴史的価値まではないユーズド品ですが、そんな風に使ってもらえたら幸いです。と、ろくにメンテナンスもせず、やれ老朽化だと安易に建物を壊しては建て続けるこの国の状況に、小さな反旗をひるがえしたいと思います。ほんと小っちゃいですけど。でも、一番の想いは、省エネやエコ意識でもなく、純粋に「それを残して使ってみたい」という感覚を大切にすること。まだがんばらせてください！

アートアンドクラフトの古物商

まだがんばらせてください!!

リノベーションの現場で取り外され、行き場のなくなったモノたち。その現場では戦力外でも別のところでは再び輝けるかもしれない。そんな思いで現場スタッフが持ちかえり、アートアンドクラフトの倉庫で眠るモノから12点を厳選して、実際に販売します。買いたい、使ってみたい、そんな方 はA&Cのウェブサイトをご覧ください。

（サイズは全て単位mm 価格は税別）

itokiの事務机

¥10,000-

1964年築の事務所ビルの倉庫からやってきました。今の机はユニバーサルデザインやらPL法やらで角が丸い物ばかりですが、これは頭を打ったら確実に流血するほど角ばっています。白い天板、黒のスチールボディのオトコ仕様。そう、オフィスで働く女性は“女の子”とひとまとめにされていた時代の机です。

（サイズ：W1000xD600、スチール製）

ペンダントライト

¥48,000-

大正時代建築の威風堂々たるテナントビル内の事務所で使われていました。外国から海を渡ってきたライトで、葉っぱか花びらをまとったようなお美しい姿に反して、体重はヘビー級。やはり西洋人、骨格も筋肉もつくりが違うようです。

（サイズ：φ250、H300、ガラス製）

郵便新聞受け

¥2,500-

レトロビルからの発掘品。真鍮製で文字が右から左へ書かれているあたり、戦前のものと推察されます。ちなみに現在のように左から書くようになったのは昭和20年代頃から。製造後80年ほど経ったと思われますが、今でも差し込み口のバネが強い質実剛健なおじいさん。日く「べらべらのチラシなんぞ食えるか!」。（サイズ：W140xH45、真鍮製）

和風照明

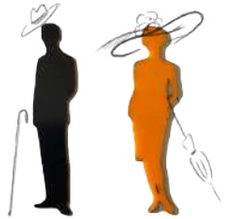
¥3,000-

築年不詳の木造建築で和室6畳を照らしていました。手作業かと思われる花火のような切子模様が全体に広がっています。レトロ洋館などで白熱球を入れて使うと、それなりの雰囲気が出そうですが、スイッチコードに紐を継ぎ足して寝たまま入/切できるようにしてしまうと一気に実家の雰囲気に。（サイズ：φ350×H200、樹脂製）

タオル掛け

¥1,800-

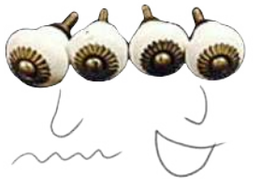
アクリルの透明バーを使ったタオル掛け。出自は不明ですが、白黒でまとめられた80年代のバスルームなどにあればしっくりくる感じ。選ばれし人が手持ちしたらライトセーバーのようになるかも!? 使いたいな、と思われた方はご相談下さい!（サイズ：W430×φ18、受け材に多少痛みあり、アクリルとスチール製）



トイレのサイン

¥1,200-

スカートの有無で男女を識別させる昨今のピクトグラムと異なり、全身で男性女性、いや紳士淑女を表現するシルエット。もしも現在、このサインのトイレがあれば迷わずこちらに入ること必至。エレガントな気分になれるかも?（サイズ：H150、プラスチック製）



つまみ

¥800-

白地にひまわりのようなデザインのつまみ。家具の取っ手として、ちょっとした物をかけるフックとして、利用できます。ちょっと花弁の枚数は多いですが、菊の御紋に見えなくもない? ロイヤル感が欲しい人にもオススメ。（サイズ：φ30×出っ張り30、陶器と真鍮製）

陶器製の化粧棚

¥3,000-

衛生機器でおなじみのTOTOのもの。表には“toyotoki”のロゴが刻印されています。こちらのロゴは、メーカーによると1962～1969の7年間のみ使われていたそう。 裏の部分には「JUNE 9 1961」の刻印があるということは、ロゴが新しくなったと同時に発売くらいのものでしょうか。6月9日生まれの方へのプレゼントに最適!?

（サイズ：L450xD150xH160、陶器製）

ガラリ付き扉
¥47,000-

築40年弱の木造住宅からやってきた扉。空気は通すが視線はさえぎる“ガラリ”のついた木製引き戸、その性能は百葉箱で実証済み。湿気のこもりやすい場所に最適なのですが、制作に手間がかかるためお値段高め。（サイズ：W900×H1800、木製）

キラキラ照明
¥8,000-

大正15年創業の大光電機（DAIKOのロゴでおなじみ）のブラケット照明。アートアンドクラフトではお風呂や洗面スペースの照明として、不動の提案採用率1位をキープし続けていたものの数年前に無念の廃番。一見シンプルだが、ガラスに立体的な柄が入っていて、点灯すると周囲広範囲に光の模様が広がるニクイやつ。
（サイズ：ガラス部分の直径140×H150）

椅子
¥35,000-

某エネルギー会社自社ビルの建替えに伴い、会議室の椅子をもらいうけたもの。すでに使い込まれていた中古品をさらに8年使い続けても、ガタがくるどころか張り生地すらへタらない、超大企業の底力を備品から感じる一品。（サイズ：W560×H770×SH430、木製に布地）

ステンレス灰皿
¥18,000-

取り壊されるビルから譲り受けた品。ふた昔ほど前、あらゆるビルや駅、公共スペースの廊下や階段や入口などに置かれていたおなじみのタイプです。喫煙＝悪というスローガンと共にその生息数は激減。美しく潔いまでの単機能。（サイズ：直径200×H600、ステンレス製）

「コレいいものだからどこかで使おう」と自信満々で持ちかえるモノもあれば、情が移って破棄しきれず「ごめんなさーい、捨てられませんでした！」と言いながら持ちかえるモノもあり。A&Cの倉庫は、「まだまだがんばれるで！」と待ち構えるベテランたちが増えてきました。これまでは一部の方に直接お譲りしていましたが、正式に古物商の認可も受けて、A&Cのウェブサイトで紹介・販売していきます。もちろん、リノベーションの際にこれらのパーツを採用してくださる方大歓迎！ 巷の華やかでステキなアンティークショップとは一線を画した古物商「まだがんばらせてください」をよろしくお願いします。

From Portland

古物担当、設計スタッフのホリノがアメリカまで行って「まだがんばらせてください」を視察!? アメリカ北西部オレゴン州ポートランドではホームセンターの一画で、リノベーションや解体現場などからのリサイクル品が膨大に積まれています。照明器具はまだしも、棚板と思しき木材や衛生機器のリサイクル販売はちょっと日本では見ない風景です。“アメリカで住みたい街ナンバーワン”と言われるポートランドは、全米で最も自転車にやさしい街で、人や環境に優しくサステナブルな暮らしが定着しており、「まだがんばらせてください」ショップが充実するのも自然の流れですね。

会社創立20周年で何か冊子でも、という話がまさかの“まだがんばってます”号となりました。ここに登場するモノたちは不朽の名作でもなく、絶大な支持を得ているわけでもない、いわばフツーのモノたち。きれいにリノベーションされた空間で、ふと、生き残った彼ら彼女らと目が合ってお互い苦笑してしまう、そんな感覚を共有できればうれしいです。

株式会社アートアンドクラフト
1994年9月、一級建築士事務所として開業。阪神淡路大震災の住宅復興コーディネート業務を経て大阪市北区に移転。1998年にマンションの一室をリノベーションしたモデル住宅“クラフトアパートメント北区同心”を発表し、本格的にリノベーション事業に取り組む。以降、数年ごとにビルコンバージョンや大正時代のビル等、実験的引越しを繰り返しつつ、台船を水上カフェにコンバージョン、キャンピングカーを移動住宅にリノベーション、大大阪時代を感じられる喫茶店運営などを企画・運営。リノベーションを軸に既存のストックを生かし、あらたな使い方を具体的に数多く提示してきた。2010年には大阪市西区でホステル ロクヨン オオサカを開業、2011年、大阪R不動産を開始、2012年沖縄事務所を開設。今年2014年で20周年を迎え、まだまだ攻める気満々。目指すは「果敢な老舗」。

均質化されていない住まい
あたらしい都市居住のスタイル

Arts&Crafts

http://www.a-crafts.co.jp/

あらたな視点で再発見！
不動産のセレクトショップ

realosakaestate
大阪R不動産

http://www.realosakaestate.jp/

マンション暮らしの新基準
セレクト型リノベーション

TOLA

http://www.tola.jp/

レトロであたらしい
デザインホステル

HOSTEL 64 Osaka

http://hostel64.com/

制作・発行
株式会社アートアンドクラフト
550-0003
大阪市西区京町堀1-13-24-1F
電話：06-6443-1350
営業時間：10:00-18:00
水日祝休
一級建築士事務所,宅地建物取引業,
建設業,古物商許可
(社)近畿地区不動産公正取引協議会会員